

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 24 期第 3 回)

日時：2018 年 9 月 18 日 (火) 10:00~10:50

場所：学術会議 5-C(1)(2)会議室

出席者：林、渡部、山崎、生田、岡村、奥村、芝井、観山、永原、相川、田近、新永、常田、
千葉、村山、浅井(skype)、佐々木(skype)、山田、深川

欠席：梶田、藤井、杉山、須藤、海部

オブザーバー：山岡 均 (国立天文台)

(順不同、敬称略)

以下、(C)は委員からのコメント、(Q)(A)は質疑回答を示す。

1. IAU 総会の概要報告 (資料 1)

渡部委員長より、8 月 20~31 日にウィーンで開催された第 30 回 IAU 総会について、以下の報告があった。総会には 89 の国と地域から 3000 名以上が参加した。決議として、IAU Strategic Plan 2020—2030、座標系の変更、歴史的データの保存に関する方針と、宇宙膨張を示す法則の推奨名の変更(「ハッブルの法則」から「ハッブル・ルメートルの法則」への変更)の案が提示された。このうち法則の推奨名の変更に関しては、総会に出席していない会員の意向を反映させるために、総会後に電子投票が行われることになった。また、次々回(2024 年)の開催地は南アフリカのケープタウンに決定した。次回 2021 年には、韓国・釜山にて開催が予定されている。さらに、総会において Vice President に渡部潤一氏、Special Nomination Committee 委員に林正彦氏、Resolution Committee 委員に福島登志夫氏が選出された。なお、IAU 100 年の記念展示においては、すばる望遠鏡が取り上げられており、また、文化的に天文学が影響を与えた 4 作品の中に宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」があった。これについては日本に移動して展示できないかが検討されている。

「ハッブルの法則」から「ハッブル・ルメートルの法則」への推奨名の変更について、決議案が可決された場合に、日本の社会、とりわけ学校教育現場での混乱が予想されることから、迅速な対応が肝要であるとの意見が出された。そこで、当分科会で名称変更への対応のガイドラインを示す学術会議声明を準備し、提案することにした。原案は岡村委員、山岡委員、渡部委員長で作成することになった。

2. Junior Member および Honorary Member について (資料 1)

渡部委員長より、Junior Member について、その定義が明確化されたとの報告があっ

た。天文学に関する博士号の取得者で、天文学研究者としてのキャリア初期にある人が **Junior Member** となる資格を持ち、在籍できるのは最大 6 年までである。毎年、9 月に **National Representative** へ募集の通知があり、翌年 3 月 15 日までに **National Representative** から **Executive Committee** への推薦が行われ、**Executive Committee** において推薦にもとづき審査が行われることになる。そこで、渡部委員長より、毎年、当分科会で日本としての **Junior Member** の申請を受け付け、12 月後半以降の分科会で（通常会員と併せて）予備審査を行った後に **Executive Committee** へ推薦する旨の提案があり、議論の後、了承された。

各 **Division** で与えられる **PhD Prize** については、日本の受賞者が少ないことから、**tennet** 等で積極的に周知を図り、数多くの応募を促すこととした。2018 年の締切は 12 月 15 日であり、2017 年 12 月 16 日～2018 年 12 月 15 日に博士号を取得した人が対象となる。

（議論）

Q（観山）：**Junior Member** になる利点は何か。

A（渡部）：**PhD Prize** の受賞資格を得ることができる。

C（岡村）：**PhD Prize** の受賞は、受賞者のキャリアに有益であろう。また、**Junior Member** のみで構成するワーキング・グループの活動案もある。

Q（芝井）：**Junior Member** の数で国の負担額は増えないか。

A（渡部）：増えない。

渡部委員長より、新設された **Honorary Member** の報告があった。**Honorary Member** には、個人会員の資格を持たないが、各国の天文学の研究や文化に顕著な貢献のあった人が選ばれる。今回の総会で、教育者、政治家、アマチュア天文家、雑誌編集者など幅広い職種の方々が選ばれている状況が紹介された。各国 1 名の推薦が認められており、推薦の機会は 3 年に 1 度である。次回以降の分科会で、日本における推薦の手順について渡部委員長が提案を行うことになった。

3. IAU100 シンポジウムについて

渡部委員長より、2019 年 5 月 27～28 日に国立科学博物館にて開催される IAU100 年記念事業日本学術会議シンポジウムの準備状況について、別紙資料に沿って報告があった。次回の分科会までには講演者を含めて内容を確定する予定であると説明された。議論では、第 II 部「これからの 100 年へ」の講演にポスドクや若手研究者を積極的に含めてはどうかとの意見が出され、検討することになった。

また、山岡氏より、IAU100 に関して、総会で 97 の国の LOC が決定したことや、オランダ・ライデンに全体の事務局が置かれること等の説明があった。

4. その他

- 次回の分科会

2019 年 1 月 23 日（水） 天文学・宇宙物理学分科会と同時開催

以上